

比較を表す二重目的語構文

時田 伊津子

1. 導入

近年の研究において、3格と4格を伴う二重目的語構文には2種類の動詞クラスがあることが認められている (Wegener 1991, McFadden 2003, Hoberg 2006, McIntyre 2006 等)。動詞 *schenken*, *kaufen*, *stehlen* 等、無標語順が3格先行の「3格>4格」となるクラスと、動詞 *aussetzen*, *unterziehen*, *widmen* 等、無標語順が4格先行の「4格>3格」となるクラスである。

(1) Er schenkt dem Kind ein Buch.

(2) a. Er setzt das Kind der Gefahr aus.

b. Er zieht die Tochter dem Sohn vor.

このうち3格>4格のクラスは二重目的語構文の主流を占め、すでに多くの研究が行われているのに対し、4格>3格のクラスは周辺的な用例であり、まだ議論の余地があると考えられる。この二者は様々な統語テストによって区別できる。無標語順の他に、文中の否定辞 *nicht* の位置、動詞と共に文頭に現れる目的語、*bekommen* 受動文の容認度等で異なった特性を示す (McFadden 2003)。これらの相違を背景に、3格>4格クラスの3格は構造的、4格>3格クラスの3格は語彙的、内在的とされ、2つのクラスには異なる統語構造が想定されている。

この4格>3格のクラスは、*aussetzen* など機能動詞のようにも用いられる動詞と *vorziehen* など比較を表す動詞に分けられる。比較を表す動詞では4格>3格の語順と3格>4格の語順との間で揺れが見られ、統語テストの結果から *aussetzen* とは異なる統語構造を示すとも言われている。本稿ではコーパス事例を用いて比較を表す二重目的語構文を実証的に調査し、語順等の実現傾向を明らかにした上で、当該の動詞が3つのグループに分類できることを述べる。

2. 先行研究

2.1. 4格>3格のクラスの動詞

4格>3格のクラスとして例えばCook (2006: S.142, S.178) は先行研究からの引用も含め、(3) のような動詞を挙げている。

- (3) aussetzen, ausliefern, entziehen, unterziehen, unterwerfen, zuführen,
unterordnen, widmen, vorziehen, entgegensetzen, vorausschicken, vorstellen,
angleichen, nachbilden, nachempfinden, anlagern

Wegener (1991: S.94 ff.) は4格より後置される3格について、前置詞と複合した動詞では元来、動詞ではなく前綴りである前置詞が格付与を行うと述べている。「通常の」3格の格付与と異なり、このような3格には無生物の名詞句が現れる。機能動詞の働きをもつ複合動詞 (jn einer Sache aussetzen)¹⁾ と3格と4格目的語に有生性の差異がない比較動詞 (jn jm vorziehen) の場合、前綴りとなった前置詞の直前(4格の後ろ)に3格が置かれる語順が保たれ、4格>3格語順が実現するという。この二者の動詞のふるまいは様ではない。前者 aussetzen のような動詞のもとでは、4格名詞句が動詞句、すなわち3格名詞句と動詞 ([Dat-NP + V]) に支配されるとし、その根拠にトピック化テストや同格テストを挙げている (Wegener 1991: S.95)。

- (4) der Kälte ausgesetzt hat er das Kind
*das Kind ausgesetzt hat er der Kälte
- (5) der Kälte ausgesetzt und geschlagen hat er das Kind
*das Kind ausgesetzt und widerstanden hat er der Kälte
dem Original angeglichen und verkauft hat er die Kopie
*die Kopie angeglichen und geschadet hat er dem Original

さらにこの3格が構造格ではなく、語彙格であることを示す現象として1) bekommen 受動化が不可能であることや、2) 無標語順における文否定の副詞のふるまいに基づき3格が動詞句の中に実現することを挙げた²⁾。また、3) レーマの4格を後置できないが、これらは内在格の2格、前置詞格目的語の文との共通点だと指摘している (Wegener 1991: S.95f.)。

- (6) *die Kälte bekommt das Kind ausgesetzt
*das Original kriegt die Kopie angeglichen
- (7) sie hat das Kind nicht der Kälte ausgesetzt

?sie hat das Kind der Kälte nicht ausgesetzt
er hat den Angeklagten nicht dem Verhör unterzogen
? er hat den Angeklagten dem Verhör nicht unterzogen

(8) welches Kind hat sie der Kälte ausgesetzt?

*sie hat der Kälte ihr eigenes Kind ausgesetzt

2.2. 比較を表す動詞

一方、比較動詞は Wegener (1991: S.97f.) によれば3 価動詞の2つの構造の間で揺れがあり、これは次のような特徴に現れているという。1) 語順が一義的でなく、インフォーマントテストで35%までが3格>4格の語順も容認した。レーマである4格直接目的語の後置も可能である。2) bekommen 受動が条件によっては容認される。3) 無標語順で文否定の副詞を3格目的語と動詞の間に置くことができる。

(9) welche Tochter hat er dem Sohn vorgezogen?

er hat dem Sohn die jüngste Tochter vorgezogen

(10) ?der Sohn bekam stets die Tochter vorgezogen

?er kriegt an diesem Abend seine spätere Frau vorgestellt

(11) er hat die Tochter nicht dem Sohn vorgezogen

er hat die Tochter dem Sohn nicht vorgezogen

er hat dem Sohn die Tochter nicht vorgezogen

?er hat dem Sohn nicht die Tochter vorgezogen

Hoberg (2006: S.868) は、4格>3格の語順が優先される動詞群に aussetzen のような動詞とあわせて、比較を表す ordnungsrelationale Verben (秩序関係の動詞) を挙げ、(12) のような動詞を提示した。3格と4格の項に付与された役割は同じ階層にあり、Zifonun et al. (1997: S.1335f.) によれば4格は「認知的前景」(kognitiver Vordergrund) として、3格は「認知的背景」(kognitiver Hintergrund) として機能する、と述べている。これらの項は共に階層的に高い位置にあり、まず背景が提示されて次に前景が際立つという無標の語順は生じないという。4格>3格語順の優先は文法的に格の階層に基づいており、この語順は文脈や強調によって3格>4格にできると指摘している。

(12) angleichen, angliedern, annähern, anpassen, vorstellen, vorziehen, zuordnen,

überordnen, unterordnen, gleichordnen, gleichsetzen, gleichstellen,
gegenüberstellen

Zifonun et al. (1997: S.1308ff.) は 1 格, 3 格, 4 格を伴う 3 価動詞を文構造の面から授与を表す geben タイプ, 上述の aussetzen タイプ, 比較を表す vorziehen タイプに分けた。vorziehen タイプについては優先される構造が定められず, 以下の 2 つの構造が並存すると述べている。前者は geben タイプと同じく, 後者は aussetzen タイプと共通している。

- (13) a. vorziehen: ((V0/T) / T) / T³⁾
- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| | | |
| K _{sub} | K _{dat} | K _{akk} |
- b. vorziehen: ((V0/T) / T) / T
- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| | | |
| K _{sub} | K _{akk} | K _{dat} |

この 2 つの構造でそれぞれの語順が無標の場合, スコープの違いを表すことができるという。例文 (14a) は (13a) の構造に従い「その上司が—もしかするといくつかのポストで—すべての男性応募者よりそれぞれ一人の女性を優先した」ことを表し, 例文 (14b) は (13b) の構造に従い「その上司がある特定の女性をすべての男性応募者より優先した」ことを意味する。この対称的なスコープの構造は, 意味役割の相違を反映するという。

- (14) a. daß der Chef allen männlichen Bewerbern eine Frau vorzog
b. daß der Chef eine Frau allen männlichen Bewerbern vorzog

以上のように, 比較を表す動詞は 3 格 > 4 格のクラスとは区別され, 4 格 > 3 格のクラスに含まれたり, 2 つの構造が並存すると解釈されたり, 語順に揺れがあるとも言われている。

比較を表す動詞の種類については, Wegener (1985: S.279f.) が意味役割という観点から「対応関係が成立する, 無効になるもしくは関係しないことを表す過程, あるいは対応関係を記述する動詞」として, 4 つのグループを挙げている。このうち他動詞は以下の「グループ 1」と「グループ 2」である。

グループ 1 A は B が C に対応するようにする⁴⁾

前の状態: B は C と等しくない, B は C に対応しない

後の状態: B は C と等しい, B は C に対応する

die Tochter dem Sohn gleichstellen, die Kopie dem Original angleichen, dem Kind die Schuhe anpassen, jn jm gleichsetzen, gleichschalten

グループ2 AはBがCと等しくないように, 対応しないようにする

前の状態: BはCと等しい, BはCに対応する

後の状態: BはCと等しくない, BはCに対応しない

die Tochter dem Sohn vorziehen, jn jm unterstellen, vorsetzen, sich jm unterordnen, unterwerfen

3. 分析

本節では, 比較を表す動詞の事例を収集し, 3格, 4格目的語がどのような語順で実現するのか, 語順や bekommen 受動の実現状況に4格>3格のクラスと見なす十分な現象が観察されるのか, コーパス事例を用いて明らかにする。また, 比較を表す動詞がいずれも同様のふるまいをするのか実証的に分析し, 動詞によって相違が見られるのかも調査する。

3.1. 対象とする動詞

時田 (2007: 64 ~ 66 頁) では無生物3格を伴う二重目的語構文を形成する動詞を Langenscheidts Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache (1999) CD-ROM 版からヴァレンツ表記を手がかりに収集した。本稿では, このうち比較の関係を表しうる以下の10の動詞を分析対象とする。

(15) angleichen, annähern, anpassen, entgegensetzen, gegenüberstellen, gleichstellen, überordnen, unterordnen, voranstellen, vorziehen

3.2. 事例分析

分析を行う事例は, Institut für Deutsche Sprache (IDS) のコーパス検索分析システム COSMAS II における大規模コーパス Deutsches Referenzkorpus の alle öffentlichen Korpora des Archivs W (mit Neuakquisitionen) [1] に収録されている上記10の動詞の文とした。以下の3.2.1. では従属接続詞 dass が導く副文の事例を収集し, 文の中域で1格主語の後ろに3格, 4格目的語が実現する事例を分析対象とした⁵⁾。

3.2.1. 中域語順

dass 文の中域における名詞句の語順を分析したところ、全 1112 例のうち 3 格 > 4 格語順が 339 例、4 格 > 3 格語順が 773 例であった。動詞別では 4 格 > 3 格語順が優勢な 7 動詞 *angleichen*, *anpassen*, *gleichstellen*, *annähern*, *vorziehen*, *überordnen*, *unterordnen* と、3 格 > 4 格語順が優勢な 3 動詞 *gegenüberstellen*, *voranstellen*, *entgegensetzen* に分かれた。各動詞について語順別の収集事例数と割合を表 1 に示す。

表 1 各動詞の語順別事例数

動詞	3 格 > 4 格		4 格 > 3 格		計
<i>angleichen</i>	0	0%	107	100%	107
<i>anpassen</i>	0	0%	100	100%	100
<i>gleichstellen</i>	0	0%	48	100%	48
<i>annähern</i>	1	1%	138	99%	139
<i>vorziehen</i>	4	3%	154	97%	158
<i>überordnen</i>	1	8%	11	92%	12
<i>unterordnen</i>	24	15%	138	85%	162
<i>gegenüberstellen</i>	62	60%	39	40%	101
<i>voranstellen</i>	69	67%	34	33%	103
<i>entgegensetzen</i>	178	98%	4	2%	182
計	339	30%	773	70%	1112

- (16) a. dass wir den ländlichen Raum der Stadt angleichen wollen (PTH)⁶⁾
 b. dass er sein Leben diesem Sport völlig untergeordnet hatte (NUN15)
- (17) a. dass man der Idee einer Ostschweizer Kripo die heutige Lösung gegenüberstellen und prüfen könne (SOZ10)
 b. dass es dem großen Gewicht Chinas sein eigenes entgegengesetzt – für die Balance in der ganzen Region (U07)

次に、3 格もしくは 4 格に人称代名詞か再帰代名詞が現れる事例を除き、形態的な語順決定要因の関与を受けない 728 例について語順を調査した。

その結果、表1とほぼ同じ割合を示し、各動詞で語順傾向の差は最大でも8ポイントに過ぎなかった。この点から代名詞化は語順の傾向に特に大きな影響を及ぼしていないことが分かる。

続いて、3格と4格が人称代名詞、再帰代名詞以外を表す728例について各項の定性と語順の関係を調査した。定性の判断は形態に基づき、定冠詞や所有冠詞、指示冠詞を伴う名詞や指示代名詞等は定の項とした。不定冠詞や数詞を伴う名詞や無冠詞の名詞、不定代名詞等は不定の項とした⁷⁾。

Lernerz (1977:54) は定冠詞と不定冠詞に注目して3格目的語、4格目的語の語順を調査し、schenkenのような文において無標語順である3格>4格の語順では特に条件がないが、4格>3格の語順では先行する4格が不定の冠詞を伴うと容認されないと指摘している。

(18) Wem hast du ein Buch geschenkt?

a. *Ich habe ein Buch dem Schüler geschenkt.

b. *Ich habe ein Buch einem Schüler geschenkt.

本稿の分析対象において4格>3格の語順で4格が不定を表す文は10動詞中8動詞 annähern, anpassen, gegenüberstellen, gleichstellen, überordnen, unterordnen, voranstellen, vorziehen で、計118例が観察された⁸⁾。上述のLernerz (1977) に基づくと、これらの動詞では4格>3格が無標語順の可能性がある。一方、3格>4格の語順で先行する3格が不定を表す文は4動詞 entgegensetzen, gegenüberstellen, unterordnen, voranstellen の43例であった⁹⁾。この4動詞ではschenkenと同様3格>4格が無標語順である可能性が考えられる。なお、gegenüberstellen, unterordnen, voranstellenはこの両方に該当し、angleichenはどちらの事例も見られなかった。

(19) dass in der Schweiz viele junge Leute eine Forscherkarriere einem 100000-Franken-Job vorziehen (A13)

(20) dass Goldsmith einem melodisch besonders einprägsamen süßlichen Hauptthema äußerst ruppige Spannungspassagen gegenüberstellte (WPD11)

さらに、同じく3格と4格が人称代名詞、再帰代名詞以外を表す728例について各項の有生性を調査した。なお、今回の調査では比較を表す動詞の全体像を探るため、3格と4格の項の有生性の差異を問わずに事例収集を行った。項の一方が生物・機関等、他方が無生物を表す事例は728例のうち56例、8%を占めた。Hoberg (2006) など多くの文献では、生物

の項が無生物の項に先行する傾向が指摘されている。語順を考慮して事例を観察すると、3格>4格語順で先行する3格が生物や機関など、4格が無生物を表す事例は *entgegensetzen* (30例), *gegenüberstellen* (9例), *voranstellen*, *vorziehen* (各1例), 計41例で見られた。*entgegensetzen*の文はこのうち8割弱(23例)で4格が *etwas*, *nichts*, *viel*, *mehr*, *Widerstand*を表している。*gegenüberstellen*の文では9例とも3格が *Initiative*, あるいは *Abzocker-Initiative*, *FDP-Initiative*を表し、4格が *Gegenentwurf*か *Gegenvorschlag*を表す。これらは熟語的な表現とも考えられる。一方、4格>3格語順で4格が生物か機関、3格が無生物を表す事例は *anpassen*, *gegenüberstellen*, *vorziehen* (各1例)の計3例であった。全事例の語順でも3格>4格が優勢となる *entgegensetzen*, *gegenüberstellen*を除くと該当事例数は少なく、今回の対象事例では有生性が語順に大きな影響を及ぼしているとは考えにくい。

- (21) a. dass sein Team den Gästen auch auf kreativer Ebene etwas entgegensetzt (RHZ05)
b. dass der Bundesrat der Initiative einen Gegenvorschlag gegenüberstellt (A11)
- (22) a. dass die Regierung die Bank modernen Bedürfnissen anpassen will. (A10)
b. dass der Bundesrat unsere Initiative der 11. AHV-Revision gegenüberstellen wird - als indirekten Gegenvorschlag. (E98)
c. dass die Landesregierung in den letzten Jahren externe Kandidaten sogenannten „Haus-Bestellungen“ vorgezogen hat (100)

また、全1112例のうち人称代名詞、再帰代名詞が現れる事例を観察すると、3格人称代名詞(36例)、3格再帰代名詞(1例)、4格人称代名詞(25例)に比べ、4格再帰代名詞の事例数が335例と圧倒的に多い。*annähern*では事例の96%(134例)、*anpassen*では52%(52例)、*angleichen*では61%(65例)、*unterordnen*では46%(75例)を占めた。その他の動詞では4格再帰代名詞の事例は1割に満たなかった¹⁰⁾。時田(2007: 290~293頁)では、*aussetzen*のタイプの動詞で4格再帰代名詞の頻度が高いことを指摘した。上記の動詞では例文(23b)のように *aussetzen*タイプの動詞と類似の意味特徴を表すこともある。4格再帰代名詞の実現傾向は、比較を表す動詞と4格>3格のクラスとの構造的な類似を示す手がかりとも考えられる。

- (23) a. dass die ökonomischen Daten des Vereinigten Königreichs sich zunehmend den von Euroland annähernten (U00)
 b. dass man sich der westlichen Kultur wohl oder übel werde unterordnen müssen (T06)

3.2.2. bekommen 受動文

bekommen 受動文の成立の可否を探るために、各動詞の過去分詞が助動詞 bekommen, kriegen, erhalten と共起する受容者受動の事例を調査した。本節では dass 文に限らず、entgegengesetzt bekommen のように過去分詞と助動詞が連続して現れる文を検索対象とする。その結果、bekommen の受動文 38 例、kriegen の受動文 0 例、erhalten の受動文 2 例の計 40 例が収集された。共起する動詞は anpassen (29 例)、vorstellen (9 例)、entgegensetzen, gleichstellen (各 1 例) である。

最も事例数が多い anpassen では、主語はおもに人間を表し、ほとんどの事例でプロテーゼ（義肢等）、身に付ける物（眼鏡、スーツ、マスク、靴など）を合わせてもらうという表現であった。主語が人間でない 1 例 (24b) は擬人的表現だと考えられる。3.2.1. の分析では意味が対応する能動文、すなわち 3 格が人間を、4 格が義肢等を表す文は収集されなかった。

- (24) a. Der Ukrainer wird in Duderstadt nicht nur die Prothesen angepasst bekommen. (BRZ08)
 b. Laut Hasenpusch soll das Denkmal in Kürze von einem Schlosser zwei Stahlmanschetten angepasst bekommen, um ein weiteres Auseinandertreiben des Betonkörpers zu verhindern. (NKU02)

vorstellen の 9 例はいずれも主語が無生物を表している。この動詞は二者の位置関係を表すと共に、3 格指示物の前に 4 格指示物を「一部として加える」という含意もあると考えられ、schenken と同じ構造を持つ動詞と解釈することもできる。また、entgegensetzen の主語は例文 (26) に挙げたように人名を含むテレビ番組名であった。一方、gleichstellen の事例 (27) では 3 格目的語が表示されており、利害の 3 格に該当する受益者が主語になったと推測される。

- (25) Rabattjagd ist geschlechtsneutral und muss deshalb in Peine künftig sächlich-korrekt den Artikel „das“ vorangestellt bekommen. (BRZ06)

(26) Für Deutschland möchte Thoma den Konkurrenten ARD und ZDF auf dem Bericht des Krimis entgegentreten: „Bis jetzt haben Derrick oder Tatort nichts Vergleichbares entgegengesetzt bekommen.“ (P93)

(27) dass ausländische Nachwuchsspieler in Österreich verpflichtet werden können und den Status ‚einem Österreicher gleichgestellt‘ erhalten, von 16 Jahre auf 18 Jahre erhöht. (NON09)

以上, anpassen, voranstellen, entgegensetzen では aussetzen の構造と異なり, 能動文の 3 格目的語が主語となる bekommen 受動が成立することが確認された。なお, anpassen の例や Wegener (1991) の挙げた例文 (10) のように主語が受益者の人間を表すか, もしくは無生物の場合は voranstellen のように 3 格指示物に 4 格指示物を一部として加える表現であることが, 比較動詞における bekommen 受動文の成立条件の一つと考えられる。

3.3. 比較をあらわす動詞のグループ

上記 3.2. の結果と文意味に基づくと, 分析対象とした動詞は, 3 グループに分類することが可能だと考えられる。angleichen など対応させることを表す動詞群, vorziehen など優先や上下関係等を定める動詞群, gegenüberstellen など対比することを表す動詞群である。

angleichen グループの動詞は 4 格指示物を 3 格指示物に合わせて変化させることを表す。他に動詞 anpassen, annähern, gleichstellen が当てはまる。第 2 節で言及した Wegener (1985) のグループ 1 とほぼ対応する。3 格指示物が直接目的語としても機能する場合は, 例文 (29) のように 4 格として提示する書き換えが可能となる。収集事例では annähern の 1 例を除き, すべて 4 格 > 3 格の語順であった。また angleichen, anpassen, annähern の事例で aussetzen 等の事例と同様, 4 格が再帰代名詞である事例が多く収集された一方, anpassen では 3 格 > 4 格の構造に典型的な bekommen 受動文も観察された。

(28) a. dass diese Staaten sich unserem Niveau angleichen (U05)

b. dass unsere Werte sich dem Westen annähern. (P14)

c. dass man alle Lebensgemeinschaften der Familie gleichstelle (U02)

(29) a. dass wir die Preise unseren Kosten anpassen müssen (NKU12)

b. dass wir die Preise und unsere Kosten anpassen müssen

vorziehen グループの動詞は 4 格指示物を 3 格指示物より優先する, あるいは上位・下位・前に置くことを表し, 二者の関係は動詞の前綴りが示す。他に動詞 überordnen, unterordnen, voranstellen が該当する。第 2 節で言及した Wegener (1985) のグループ 2 とほぼ対応する。今回の分析事例では vorziehen, überordnen, unterordnen で 4 格 > 3 格の語順が優勢であった。また, unterordnen の事例では 4 格再帰代名詞が 5 割弱を占めた。一方, voranstellen の事例では 3 格 > 4 格の語順が優勢で, bekommen 受動文も収集され, 3.2.2. で言及したように schenken の構造との類似が指摘できる。

- (30) a. dass sie den Frieden dem Krieg auch vorziehen (FOC01)
 b. dass der Autor nicht die Phantasie der realen Welt überordnen (WPD11)
 c. dass er sogar sein Privatleben dem Fußball unterordnet (RHZ05)
 d. dass er seinem Namen den Ingenieurstitel voranstellt (U15)

gegenüberstellen グループの動詞は 3 格, 4 格目的語の指示物である二者を対置, 対比することを表す。他に動詞 entgegensetzen が該当する。上記 2 グループと異なり, Wegener (1985) の提示する「対応関係を記述する動詞」には含まれていないが, Cook (2006) の 4 格 > 3 格のクラスの動詞リスト (3) に entgegensetzen が, Hoberg (2006) の秩序関係を表す動詞リスト (12) に gegenüberstellen が挙げられている。4 格指示物の変化を表さないため, 例文 (32) のような文では文意味を大きく変えることなく 3 格と 4 格の項を交換でき, 共に 4 格として表すことも可能である。収集事例では程度の差はあるが 3 格 > 4 格の語順が優勢であり, entgegensetzen の bekommen 受動文も観察された。例文 (33) のように 3 格が生物を表す文では, その人に提示するために 4 格指示物を対置するという意味を担うことがあり, 授与関係を表す表現との類似が観察される。

- (31) dass die EU diesem Druck konkrete Chancen und gelebte Solidarität entgegensetzt (RHZ13)
 (32) a. dass er unter dem Aspekt „Früher und heute“ eine Pferdekutsche einem modernen Auto gegenüberstellte (RHZ02)
 b. dass er ein modernes Auto einer Pferdekutsche gegenüberstellte
 c. dass er eine Pferdekutsche und ein modernes Auto gegenüberstellte
 (33) dass Eltern Kindern eine breite Palette anderer Beschäftigungsmöglichkeiten entgegensetzen müssten (A00)

以上、上記 3.2. の結果と文意味に基づき、3 グループの分類を提案した。グループ別に各動詞の事例に見られる特徴をまとめると表 2 のようになる。表 1 でも示した収集事例における語順の割合を「語順」の欄に改めて挙げる。Lernerz (1977) の定義に従い、不定の項が先行することで無標語順の可能性を示す事例が収集された動詞には「定性」の欄に○を付ける¹¹⁾。schenken のような 3 格 > 4 格の構造の特徴であり、aussetzen のような 4 格 > 3 格の構造では実現されない bekommen 受動文が収集された動詞には「bekommen」の欄に○を記す。4 格 > 3 格のクラスである aussetzen の構造に頻出する 4 格再帰代名詞の事例の割合を「再帰」の欄に示す。

表 2 各動詞の語順傾向と特徴

	3 格 > 4 格			4 格 > 3 格		
	語順	定性	bekommen	語順	定性	再帰
angleichen	0%			100%		61%
anpassen	0%		○	100%	○	52%
gleichstellen	0%			100%	○	0%
annähern	1%			99%	○	96%
vorziehen	3%			97%	○	0%
überordnen	8%			92%	○	8%
unterordnen	15%	○		85%	○	46%
voranstellen	67%	○	○	33%	○	0%
gegenüberstellen	60%	○		40%	○	5%
entgegensetzen	98%	○	○	2%		2%

表をみると、angleichen のグループでは、ほぼ全ての事例が 4 格 > 3 格の語順であり、動詞別の特徴でも 4 格 > 3 格の構造との共通点が多い。Wegener (1991: S.95) も統語テスト (5), (6) で angleichen が aussetzen と同等の結果を示す例文を挙げていた。vorziehen のグループではおもに 4 格 > 3 格の語順が優勢であるが、3 格 > 4 格の構造との共通点を示す動詞もある。一方、gegenüberstellen のグループでは語順でも他の特徴でも 3 格 >

4 格の構造との親和性が高いようだ。比較を表す動詞群のなかでも、2つの語順の間での揺れの程度、あるいは各構造との類似の程度は異なり、意味グループによってある程度似通った傾向を示すことが明らかになった。

なぜ gegenüberstellen のグループでは 3 格 > 4 格の語順が比較的高い頻度を示すのだろうか。entgegensetzen については、3 格 > 4 格語順の傾向が強いことや授与関係と類似した文意味も示すことから 3 格 > 4 格の構造であると仮定できよう。gegenüberstellen については、次のように考えられる。4 格指示物の変化を表す angleichen のグループ、優先や上下の関係を定義する vorziehen のグループでは、3 格と 4 格の意味機能が異なると思われるが、それに比べ、gegenüberstellen では 3 格と 4 格の意味機能の相違はわずかである。そのため認知的な相違が前面に押し出され、背景を表す 3 格が先行して前景を表す 4 格が後置される事例も、ある程度の割合で実現するのではないだろうか。

3.4. 日本語の分類との類似

上記の 3 つのグループは、村木 (1991: 137 ~ 172 頁) の分類との類似が見られる。村木は「日本語の動詞の構造を、名詞の格形式及び範疇的意味と動詞の範疇的意味とを手がかりとして分類し類型化しよう」とし、名詞と動詞のあいだに成り立つ関係概念を「叙述素」と呼び、叙述素一覧を提案している (1991: 148 頁)。そのうち、抽象関係をあらわす叙述素の中に〈対称〉、〈関連〉、〈比較〉が挙げられている。以下にそれぞれの定義 (34) と提示されている動詞の一部 (35) を引用する (村木 1991: 150 頁, 158 頁)。Ni はここでは対格の名詞を、Nj は Ni と同位もしくは下位の格形式の名詞をさす (村木 1991: 152 頁)。

- (34) a. 対称 定義 Nj は、Ni の共同者である
b. 関連 定義 Nj は、Ni が関係づけられる基準である
c. 比較 定義 Nj は、Ni の比較の対象である

(35) a. 〈対称〉

甲を 乙と 比べる
(くらべる、ぶつける、合わせる、似せる、かさねる、まぜる)

b. 〈関連〉

甲を 乙に 似せる

(似せる, 合わせる, ぶつける, 当てる, まぜる)

c. 〈比較〉

甲を 乙より このむ

(このむ, 進める, おくらす)

この3つの叙述素〈対称〉, 〈関連〉, 〈比較〉という分類は二者を対比する *gegenüberstellen* のグループ, 一方に合わせて他方を変化させる *angleichen* のグループ, 二者の優先や上下の関係を定める *vorziehen* のグループという分類と少なくとも部分的に重複する。ドイツ語ではいずれも3格と4格を伴う二重目的語構文で表現されるが, 日本語で異なる格形態を用いて異なる「叙述素」に分類されるということは, 本稿で提案した3つの分類の傍証となりうるだろう。

4. 結語

以上, 本稿では比較を表す二重目的語構文をコーパス調査し, 収集事例の分析からその特徴を探った。動詞別に観察するとふるまいは一様ではなく, 実現する語順やその他の特徴において *aussetzen* のような4格>3格の構造や *schenken* のような3格>4格の構造との類似の程度も異なることが明らかになった。また, 調査結果と文意味から当該の動詞は3つのグループに分類でき, この分類は日本語における村木(1991)の分類と重なる部分も見られた。

今回, 比較を表す10の動詞を分析したが, 例えば *angleichen* と *entgegensetzen* のふるまいには大きな違いが見られた。*vorziehen* など代表的な事例の分析のみでは捉えきれない, 比較を表す動詞の全体像の一端を示すことができたのではないだろうか。一方で, 比較を表す3つのグループを統括するプロトタイプは存在するのか, 共通の統語構造を設定できるのかなど, まだ課題は残されている。

また, 動詞によっては, 比較よりも *aussetzen* のような4格>3格のクラス, *schenken* のような3格>4格のクラスの意味構造と解釈できる事例もあった。具体的な位置関係を表す複合動詞が比較を表し, そこからどのような認知的拡張によって *schenken* や *aussetzen* に類似した意味を担うようになるのかという点についても今後の課題としたい。

注

- 1) jn は jemanden の略で, jm は jemandem の略である。表記は Wegener (1991) のとおりである。
- 2) 例文 (7) で「?」マークの付いた文は文否定ではなく、部分否定になる。
- 3) V0 は結合価の項が満たされた動詞, T は項 (Term), K は補足語 (Komplement) を示し, K_{sub} は主語, K_{dat} は 3 格補足語, K_{akk} は 4 格補足語を表す。(Zifonun et al. 1997: S.973ff., 1077ff.)。
- 4) A, B, C は論理構造における項を表す (Wegener 1985: S.132)。ここでは A は 1 格主語, B は 4 格目的語, C は 3 格目的語に該当する。なお、各グループの例に挙げた jn, jm の表記は Wegener (1985) のとおりである。
- 5) 次の動詞では検索結果の件数が多かったため無作為抽出した事例 (括弧内に事例数を記載) から該当事例を収集した。entgegensetzen (500 例), unterordnen (600 例), annähern, vorziehen (各 700 例), anpassen (1000 例)。
- 6) コーパスから収集した事例の最後には出典の略称を添える。出典のリストは次のサイトに記載がある。
<http://www1.ids-mannheim.de/kl/projekte/korpora/archiv.html#Textorganisation>
- 7) なお、4 格 > 3 格の事例 413 例では定 > 不定が最も多く 254 例、不定 > 不定が 41 例、不定 > 不定が 48 例、不定 > 定は 70 例であった。3 格 > 4 格語順の事例 315 例では、定 > 不定が 44 例、定 > 不定が最も多く 228 例、不定 > 不定が 39 例、不定 > 定が 4 例であった。
- 8) 各動詞での該当事例数は以下の通りである：vorziehen 61 例, unterordnen 18 例, gleichstellen 15 例, gegenüberstellen 10 例, voranstellen 7 例, anpassen 3 例, überordnen 3 例, annähern 1 例。
- 9) 各動詞での事例数は以下の通りである：entgegensetzen 30 例, gegenüberstellen 6 例, voranstellen 6 例, unterordnen 1 例。
- 10) 他の動詞での事例数は以下の通りである：entgegensetzen 3 例 (2%), gegenüberstellen 5 例 (5%), überordnen 1 例 (8%), gleichstellen, vorziehen, voranstellen 各 0 例。
- 11) 表 2 では当該の事例が収集されなかった動詞については、他の検索方法や他のコーパスでは収集される可能性があるため、「×」を記入せずに空欄とする。

参考文献

- Cook, P. (2006) : The datives that aren't born equal. In: Hole, D. / Meinunger, A. / Abraham, W. (Eds.) : Datives and Other Cases. Amsterdam / Philadelphia: J. Benjamins Pub. S.141-184.
- Hoberg, U. (2006) : Wortstellung: Valenzgebundene Teile und Positionspräferenzen. In: Ágel, V. / Eichinger, L. M. / Eroms, H.-W. / Hellwig, P. / Heringer, H. J. / Lobin, H. (Hrsg.) : Dependenz und Valenz. Ein internationales Handbuch der zeitgenössischen Forschung (vol. 2). Berlin / New York: de Gruyter. S.861-873.
- Institut für Deutsche Sprache (2015) : Deutsches Referenzkorpus / Archiv der Korpora geschriebener Gegenwartssprache 2015-II (Release vom 28.09.2015). Mannheim: Institut für Deutsche Sprache. (www.ids-mannheim.de/DeReKo)
- Lenerz, J. (1977) : Zur Abfolge nominaler Satzglieder im Deutschen. Tübingen: Narr.
- McFadden, T. (2003) : The underlying structures of German inherent Case. Write-up of talk delivered at the joint meeting of the FGLS and the SGL, London, January 3rd. S.1-25.
- McIntyre, A. (2006) : The interpretation of German datives and English *have*. In: Hole, D. / Meinunger, A. / Abraham, W. (Eds.) : Datives and Other Cases. Amsterdam / Philadelphia: J. Benjamins Pub. pp.185- 212.
- Wegener, H. (1985) : Der Dativ im heutigen Deutsch. Tübingen: G. Narr.
- Wegener, H. (1991) : Der Dativ - ein struktureller Kasus? In: Gisbert Fanselow / Sascha W. Felix (Hrsg.) : Strukturen und Merkmale syntaktischer Kategorien. Tübingen: Narr. S.70-103.
- Zifonun, G. / Hoffmann, L. / Strecker, B. (1997) : Grammatik der deutschen Sprache. Berlin [u.a.]: De Gruyter.
- 時田伊津子 (2007) : 無生物 3 格二重目的語構文—「生物 3 格」を含む二重目的語構文と比較しつつ—。(東京外国語大学大学院地域文化研究科 博士論文)
- 村木新次郎 (1991) : 日本語動詞の諸相. 日本語研究叢書第 1 期第 1 巻. ひつじ書房.